平成 21 年度第 2 回新宿区新中央図書館等基本計画策定委員会　要旨

1　出席者について

（委員）

深澤良彰会長、野末俊比古副会長、清水義次委員、中村廣子委員、新田満夫委員、持谷寿夫委員、山口春代委員、神﨑健也委員、馬場章夫委員、百足山昌子委員、森美樹子委員、猿橋敏雄委員、小柳俊彦委員、野田勉委員　（以上 14 名）

（関係所轄担当課長）

橋口区政情報課長、藤牧企画政策課長、木内行政管理課長、赤堀情報政策課長、木全総務課長、山下施設課長、佐藤景観と地区計画課長、小沢産業振興課長、竹若教育政策課長　（以上 9 名）

（事務局）

松田新図書館・学校情報化推進担当副参事、田辺中央図書館管理係主査、羽山企画政策課主任（以上 3 名）

2　開催場所

新宿区役所 5 階　大会議室

3　実施日時

平成 21 年 12 月 8 日（火）午後 3 時から午後 5 時まで

4　開会

【　会長　】

◇　第 1 回策定委員会で欠席された馬場章夫委員の紹介。

【　事務局　】

◇　図書館に関する調査結果の報告。

（1）来館者調査

・平成 21 年 9 月 18、19 日に中央図書館を含む全１０館で聴き取り型のアンケート調査を実施し、1,193 票を集めたこと。

・図書館に対する総合評価（「全体で満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」の 5 段階）では、「全体で満足」と「やや満足」の合計が８５．２％になり、利用者からは図書館に対して、高い評価をいただいていると思われること。

（2）郵送調査

・平成 21 年 9 月 18 日から、住民基本台帳から 18 歳以上の無作為抽出 3,000 名に郵送でのアンケートを送付。10 月 16 日までに回答をいただいた 1,162 票を調査結果に反

映させたこと。

・利用者を図書館の利用頻度別に（「ほぼ毎日～2 週間に 1 回程度の利用：高利用者、月に 1 回程度～年に数回程度の利用：低利用者、現在ほとんど利用されていない：未利用者」）分けた場合、概ね高利用者は 2 割、低利用者は 3 割、未利用者は 5 割にの比率になること。

・従来型の図書館サービスの典型例である「一般図書、雑誌、新聞の充実」などは、高利用者が重要と答える比率が高い。

・「カフェ、喫茶スペースなどの交流スペースの確保」などの新しいサービスといわれる内容には、低利用者が高利用者よりも重要と答える比率が高い。

・高利用者は、従来型のサービスに対して要望が強く、低利用者は新しいサービスについて要望が強いという傾向が見られる。

（3）ヒアリング調査について

・量的調査では把握できない特殊事情や、新しいアイディアをお伺いするため、9 月下旬から 10 月にかけて、全 26 団体・個人にインタビュー形式で実施。

・それぞれの団体などで、自分の専門性を活かした図書館との連携については好意的な意見が多く、発展性のある話を多数伺えたこと。

【　委員　】

短期間で、これだけの調査を行った事務局に対しては大変感謝している。新宿区は、東京都全体や日本全体の中でも注目される自治体なので、居住者だけでなく、新宿区に通勤している人などを含めてサービスを考えていくという視点も必要ではないか。

【　事務局　】

ヒアリング調査で、新宿区の在勤者に対してのヒアリングも行っており、その意見などを今後の検討に活かしていく。

【　副会長　】

アンケートの回収結果は、一般的な利用者の割合を概ね反映していて大きな偏りはないという理解でよいか。

【　事務局　】

来館者調査は、聞き取り形式で実施しているため例えば、こども図書館ではお子さんを連れて来館しているためか、なかなか立ち止まって質問に回答いただけなかったという報告を受けている。その意味では偏りがあるかもしれないが、概ね普段どおりの数字がでているのではないかと考えている。

【　委員　】

先ほどの区内・区外の利用者の話にも通じるが、この新中央図書館は誰をターゲットにしていくという視点、更には 1 番ターゲットにしたい人、2 番目にターゲットにしたい人など、優先順位にも踏みこんで考えていくことが必要ではないか。

◇新しい図書館を考えるつどいについて報告。

（１）実施について

新中央図書館等の機能・役割の検討を行うに当たって、利用者からの様々な意見を収集し、今後の検討の参考とするために実施した。平成 21 年 8 月 25 日付区報やホームページなどで参加者を公募し、在勤者を含めて 19 名の方の応募があった。運営は、1 班 6～7 名の 3 班体制で開催し、班員は一部の方を残して毎回入れ替えを行い、全員で共通の認識が持てるような工夫をした。

（２）実施期間等

平成 21 年 10 月 15 日、11 月 5 日、12 月 3 日の全 3 回を、中央図書館大会議室で開催。

（３）経過

第 1 回を「図書館のあり方について」、第 2 回を「こんな図書館があったらいいな」とそれぞれテーマに沿って議論を行った。最後の第 3 回で、第１、２回の議論を基にしたソフト、ハード毎に新中央図書館等に望む優先度ランキングを実施した。

（４）結果

順位	ソフト部門	順位	ハード部門
１位	資料収集の強化	１位	ＩＣＴ環境の強化
２位	相談機能の強化	２位	バリアフリー・ユニバーサルデザインなどでの図書館整備
３位	図書館に関するイベントの実施	３位	閲覧しやすい空間づくり

【　委員　】

この参加者 19 名は、図書館に詳しい人か。

【　事務局　】

年齢層的にも 30 代から 80 代の方まで、図書館が大好きで非常に熱心な方が集まられた。

【　委員　】

資料収集の強化といった項目があるが、具体的な内容についての議論はあったか。

【　事務局　】

健康や介護など、区民に役立つような資料収集に力を入れてほしいという内容であった。

◇　見学会の実施について報告

【　事務局　】

・第 1 回委員会において提案された、他自治体の図書館見学についての報告。

実施日時	平成 21 年 10 月 28 日（水）午後 2 時から午後 4 時 50 分

見学先	川口市立中央図書館（メディアセブン）
施設概要	・ＪＲ川口駅東口徒歩１分の再開発ビルの中にある。 ・複合施設であり、商業施設や保育園、図書館の他にメディアリテラシーを総合的に追求する場としてメディアセブンという施設がある。
見学者	９名（事務局を含む）

実際に見学に参加した４名の委員に感想を述べてもらった。

明るい印象・書架があまり高くない・図書館単独施設ではないため、図書館機能についての不安を感じたなど。

【　審議事項「新しい図書館のあり方について」　】

・新宿区図書館基本方針（平成 20 年１月策定）の１ページから３ページを通じて、「ＩＴ社会に対応した設備を持つ情報センターとしての機能を強化した新中央図書館の検討」を策定委員会に諮問した背景を説明した。

・策定委員会の議論の中で、以下の視点での意見、アイディアをいただきたいこと。

「（１）書籍を中心とした図書館をより魅力的にするには」

「（２）ＩＴ社会に対応した情報センター（メディアセンター）としての機能とは」

「（３）図書館、メディアセンターそれぞれの新宿らしさは」

【　会長　】

これまでのユーザーの方には、比較的満足していただいている点から（１）の機能はキチンとキープしていく必要がある。一方で５割以上の方がまだ図書館を使っていない事実もあり、新しいユーザー層を掘り起こしていくという視点も必要である。どのような切り口からでもよいので、上記３つの視点についての活発な意見をお願いしたい。

【　委員　】

図書館は、書籍など各種メディアの収集も大事であるが、くつろげるような空間を提供できるような図書館にしてほしいと思う。また、ホームレスの問題もあり、臭いやセキュリティといった部分からの対策も必要ではないか。

【　委員　】

隣には戸山公園もあるので、セキュリティと安全面での調整も必要なことである。

【　委員　】

区では、ホームレスの自立支援計画という先進的な計画も行っている。図書館だけでなく公共施設の利用問題とセットで考える必要があり、ホームレスを排除するといった視点では、解決は難しい。

【　委員　】

問題のある利用者のうち、ホームレスに限っての私見であるが、彼らに「情報を得

る権利を保障すること」が必要だと思う。図書館は社会教育施設でもあり、公共図書館の果たす役割は利用者の生活を支援することである。図書館として、適切な課題解決への橋渡しや学ぶ機会の提供は、あってしかるべくではないか。問題利用者を、学習する機会の提供によって問題利用者でなくすることが、本来の社会教育機関の役割だと考える。

【　会長　】

「くつろげる場所」というキーワードがあったが、利用者によって様々な利用目的があるという部分からのご意見は。

【　委員　】

新宿らしさということで、千代田図書館のように夜 10 時以降まで開館するような予定はないか。

【　事務局　】

来年度から中央、四谷、角筈、大久保の 4 館は午後 9 時 45 分までの開館となる。

【　委員　】

行政サービスの運営に限界があるならば、コスト面からも民間委託を行ってもよいのではないか。民間の力を利用してコストカット、サービスアップを両立することが可能になるかもしれない。

【　委員　】

図書館として「くつろげる」とはどういうことを意味しているのか。図書館である以上、学習の場ではないか。例えば早稲田大学エクステンションセンターやカルチャースクールでは、高齢の方が一生懸命勉強している。勉強していることは、読書につながっていく。東京でも屈指のエクステンションスクールを作り、様々な講座を設けてみてはどうだろうか。

【　会長　】

エクステンションについては、早稲田大学でも力になれることはあると思うし立地も活かしていきたい。会社員が夜、勤務後に勉強したいというニーズもあると思うので、今後の計画作りの中で活かしていきたい。くつろぎについてのご意見は。

【　委員　】

知的好奇心を満たす場所は、ゆったりとした場所がよいのでは。川口市の図書館は、割と広い場所に書架を含めてゆったりと物が置いてあるので、区分けなどを行えばある程度はくつろげるのでは。もっとオープン的なところも必要だと感じたが。

【　委員　】

学習者を取り込むことは重要だが、計画段階で自習室を入れても学習席の確保は、どこの図書館でも大きな問題となっている。また、開館時間を延長するのであれば、貸出・返却を機械化して、それ以外の人的サービスに力を入れるといった省力化の方

向性も必要ではないか。

【　委員　】

建設地は、周辺に学校がたくさんある。課題として、議論したい学生や静かに本を読みたい学生もいるので、設計時に分けて考えるといった視点が必要と思う。

【　委員　】

図書館基本方針は、「地域の課題解決を支援し、地域の発展を支える情報拠点」と明快に書かれており、とてもよくできていると思う。図書館は、その地域課題に対してどんな役割を演じるかを議論していくべきではないか。より具体的なテーマに即して議論すると、新しい図書館の姿が見えてくるのではないか。

【　委員　】

公共図書館は、都道府県と市町村では多少役割分担が違い、老若男女幅広く趣味や実用を中心とした資料収集を主とする市町村と、それより専門的、高度な研究に資する資料収集や市町村のバックアップを行うことが都道府県というのが伝統的な図書館像であった。

更にこれからの図書館像は、資料や書籍の電子化・インターネットの資源を含めてネットワーク化の対応が求められる。その一方で「場」としての図書館も非常に重視されつつある。この両極のバランスをいかにとるかが重要である。また、地域の課題解決については、図書館が住民支援をするだけでなく、いかに行政を支援していくかも課題となってくる。

私見ではあるが、図書館の機能を「公共図書館」ということで大きく議論していたが、基本的にすべての図書館が満たさなければならない基本的機能、その図書館ごとに選択してよい個性を出すべき機能と二階建てで考えていく方が、議論として整理しやすいのではないか。

この利用者ならではという部分や他の行政部局を含めた様々な期間との連携、こういった部分が個性を出すべき部分となっていくのではないか。

【　会長　】

ただいま頂いた提案などを踏まえながら、今後も議論を進めていきたいと考えている。次回は平成 22 年 1 月 15 日、午後 6 時から今日と同じ場所で開催する。

（了）